

寄稿
特集

連載
第2回

現場で学ぶ 最良の建築物追求

(社)福島県建築設計協会 県北支部 青年部では、各委員会がそれぞれの事業計画に基づき精力的に活動を展開しておりますが、8月8日に実施された研修委員会主催の「現場見学会」では、施工中の現場を見せていただいた後に発注者、施工関係者、設計関係者によるディスカッションの場を設けることができました。

その中でも特に御協力をいただいた、福島県県北建設事務所 建築住宅部 篠原部長のお話を寄稿特集として取り上げさせていただきます。

現場を見ることの重要性

設計者は机上での作業が大半を占め、図面を書くことだけが仕事の中心になりがちである。自分が設計した現場や他人が設計した現場に数多く足を運び、設計意図は十分伝わっているか、施工上で問題は生じていないか等をきちんと確認する必要がある。

設計意図を明確にする

自分(設計者)の考えを発注者や施工者に十分伝えるためには設計意図を明確にし、かつ図面を見る者は他者であることを念頭におき、分かり易い設計図書作成を心がける。

現場で発生した疑問に対して

施工現場では、さまざまな疑問や問題が発生する。その際、設計者としての的確な指示や回答を出せるよう準備をし図面内容を熟知しておく。

受注業務の統括

施工現場では、建設業者、電気設備業者、給排水設備業者等が混在しているので、設計業務の元請である者は、元請下請の別を問わず設計内容をしっかりと把握し、受注業務の統括に責任を持つ。

現場を参考書とする

自分が携わった現場に足を運び、良かった点や悪かった点を知ることは重要である。着工から竣工まで十分に現場を見ることにより、次回設計にとりかかる際の参考書とする。

より良い建築物

上記のように現場で学び、現場を心得たうえでより良い建築物を目指す。今回見学した県営住宅としての良い建築物とは利用者にとって使い易い建物であり、再生がきく(環境にやさしい)もの、維持管理がローコストでできるもので、さらに良い建築物ができるよう官民協力のうえ頑張ってください。

活動報告～現場見学会

開催日時 平成15年8月8日(金)
担当委員会 研修委員会



現場見学会に先立ち、福島県県北建設事務所の松本キャップや関連施工会社より「蓬莱団地8号棟」住戸改善工事の概要を説明していただきました。



高齢者タイプ、フラットタイプ、メゾネットタイプと3種類の住戸改善工事が進められており、居住者の幅広いニーズに対応できる改善内容でした。



引き続き「北信団地17号棟」の高齢者タイプ、フラットタイプを見学し、類似の現場でも生じる問題はさまざまである事などを再確認しました。



最後に、発注者、設計者、施工者の立場から意見を出し合うディスカッションの場を設け、参加者全員が感想や問題点について論じ合いました。

～現場見学会に参加して～

平成15年8月8日(金)に福島県県北建設事務所の御協力のもと我々の技術能力向上を図るため、改修工事の現場である『蓬莱団地8号棟』及び『北信団地17号棟』を見学研修しました。

県営住宅とは、居住者が安心して居住出来るように低廉で良質な住宅を供給することとしており、新規建設や既存ストックの活用を行います。今回の見学地は、住戸改善事業で、既存の県営住宅の構造躯体を利用し、住戸の規模を大きくし、内部の模様替えや設備機器を更新して居住水準を向上させたものでした。

改修前と改修後の図面を見比べ改修後では、2つの住戸の壁を取り除き1つの住戸にしたり、直上階の床を取り除き、階段を付けメゾネット式に改修したりと1住戸当たりの面積がとても大きくなり、ゆとりのある物になったと思いました。県営住宅は、居住者が望むような、ゆとりある住居になって来ていると実感でき、今後もより良い居住水準・技術の向上が望まれると思います。

情報委員会委員 田中宏幸



青年部委員会活動

2003年度も上半期が終了し、下半期に以降しました。青年部内の4委員会もそれぞれの事業を着実に遂行しておりますが、1年の中間点として、委員会の活動内容や下半期の展望を報告させていただきます。

青年部内4委員会体制

総務会員委員会	委員長：原田信弘、副委員長：荻野誠也
研修委員会	委員長：家名田秀昭、副委員長：後藤充偉
情報委員会	委員長：蛭川礼二、副委員長：箱岩 偉
政策委員会	委員長：大内一弘、副委員長：鶴飼隆則

総務会員委員会 ~ 総務会員委員会では、総会の設営や2ヶ月に一度開催される例会の設営及び総括等の事業を行ってまいりました。今後も、会員親睦会や例会等の準備に加え、研修委員会との合同企画による「著名人による講習会(立案中)」も予定されております。

研修委員会 ~ 研修委員会では、福島県北建設事務所に御協力いただき、工事完了前の現場を見せていただく「現場見学会」を開催いたしました。これからの事業には「技術研修会」、「建物見学会」、「著名人による講習会(立案中)」等があり、準備をすすめています。

情報委員会 ~ 情報委員会では、1年に4回発行される「青年部四季報」を配信、配達しています。会報発行の他にも建築関連情報の収集と発信を心掛け、「福島県建築設計協会ホームページ」を立ち上げるための検討と準備をすすめています。

政策委員会 ~ 政策委員会では、街並みに関わる調査研究の一環として、福島の街を説明していただきながら実際に歩く「まちなかウォーク」を開催しました。現在進行中でもある、古き良き建物をMAP化する事業も今年度中に報告会を開催できるよう準備中です。

今後も、各委員会活動に対し、青年部内外の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

宗像武久氏講演会

開催日 平成15年6月27日(金)

担当委員会 総務会員委員会

去る平成15年6月27日(金)に(財)ふくしま建築住宅センター理事長の宗像武久氏をお招きし、建築設計協会 会議室にて、講演をしていただきました。

- 1、建築文化の向上と建築行政について
- 2、建築設計事務所の経営について
- 3、建築マネジメント(CM方式)
- 4、建築住宅センターの現在と今後

以上の4項目に渡り、2時間程の和やかな講演となりました。

講演を快く引き受けて下さいました宗像氏に改めて御礼申し上げます。



活動報告～まちなかウォーク

開催日 平成15年8月31日(日)

担当委員会 政策委員会

～まちなかウォークに参加して～



街道に沿って説明を受ける様子



街道に沿って説明を受ける様子



日銀支店長宅にて説明を受ける様子

平成15年8月31日、あいにくの小雨の中、政策委員会による例会「まちなかウォーク」が行われました。政策委員会では、昨年より福島の街中にある古い建物をピックアップし、福島の街にもこんな歴史を語る建物が有るんだとPRしたく活動中でした。そんなこともあり、福島の歴史に精通し、かつ、独自の視点で福島を見つめていらっしゃる 福島城下七町歴史研究家 江代正一氏に、福島の街を建築家に近い視点でお話願いました。当日のコースは、まちなか広場 信夫橋 第一小学校 豊田町 日銀支店長宅で行われました。このコースは、かつての街道にあたり、町並みが左右に並ぶ中心地だった所です。なぜ街道はここを通ったか?歴史は教えてくれませんでした。地形は教えてくれました。江代氏の指摘によると、街道は河岸段丘の上にあったとの事。なるほど、よく見ると街道の左右は少しづつ下がっている。東側は阿武隈川の河川敷で、西側は後背湿地だった。昔は堤防など有りませんでしたから、理に合っているんですね。その他、水路の位置や関所の位置関係、街道の幅の変化についてなど、実際に歩くことによって、様々なことを教えていただきました。私たち建築に関わるものにとって、かつては自然に逆らうことなく建物を建てるのが使命だったはず。昔の人は、水が出る所は地名に水に因む名前をつけ住むことをせず、風の通り道には防風林などを作り、水や風から身の安全を図ってきました。今はどうでしょう。川の上や下、風の強いところなどなど、自然をコントロールしているかのごとく、昔なら考えられない場所に建物を建てるようになりました。でも、私たちは想像以上の自然の力の前にはどうしようもなく無抵抗になります。堤防もいつ決壊するか分からない。いつ崖崩れを起こすか分からない。地球にとって100年なんて一瞬です。100年間安全だったから大丈夫ではないのです。今一度、自然を知り、歴史を知り、そして何より人間の小ささを知り、建築に携わるべきではないのかと自問自答した一日でした

政策委員会委員 菅野 真